



本市は国際認証制度であるセーフコミュニティ認証の取得を目指しています。

セーフコミュニティいすみおおつ

第
16
回

推進協議会・外傷サーベイランス委員会・対策委員会

合同会議を開催



合同会議の様子

会議には約80人の委員が出席し、10月15・16日開催の本市セーフコミュニティ「事前指導」の開催や今後の活動スケジュールについて事務局より説明を行いました。

その他、事前指導への予行演習として当日と同様の報告順

9月28日、推進協議会、外傷サーベイランス委員会、分野別対策委員会の合同会議を開催しました。

合同会議で、事前指導に向けた予行演習を実施

9月28日、推進協議会、外傷サーベイランス委員会、分野別対策委員会の合同会議を開催しました。

合同会議で、事前指導に向けた予行演習を実施

に、全体説明や6つの分野別対策委員会、外傷サーベイランス委員会から、「これまでの活動の概要報告が行われました。それぞれの報告後には、本市の取り組みを助言、指導していける日本セーフコミュニティ推進機構の白石陽子代表理事から事前指導本番や今後の活動に向けてのアドバイスをいただきました。



本市の取り組みに対し助言する白石氏

今回は、「対策委員会で決定された重点課題や方向性、対象など」を中心に約10分ずつの報告となりましたが、報告内容の確認や、各対策委員会の現在の進捗状況を共有することができました。

交通安全対策委員会では、重



点課題の一つに、交差点など「特定の環境での事故が多い」こと

第9回・11回の会議では、委員の皆さんで市内数か所の交差点を実際に訪れ、各方向からの見通しや自動車の通行量といった状況や危険箇所の確認を行いました。

統計データや現地視察を踏まえ、課題解決に向けた具体的な取り組みについて検討が進められています。



交通安全対策委員会メンバーが市内の危険箇所を視察

があります。

各委員会との情報共有は、自委員会の取り組みを発展させる絶好の機会

事前指導（海外の専門家による泉大津市SC活動の視察）を前に開催された推進協議会で、各対策委員会がこれまでの協議や活動の内容を報告しました。今回のように、対策委員会同士が進捗状況を共有することで、より効果的な取り組みにつながります。現在、各対策委員会では効果的な取り組みを継続的に進めるための土台を作っています。今後は、専門家からの助言なども参考にしながら、泉大津市さんらしい取り組みを展開されることを期待しています

JISC 代表理事
白石陽子氏のコメント

